

平成 24 年度事業計画

自 平成 24 年 4 月 1 日

至 平成 25 年 3 月 31 日

公益財団法人 日 本 棋 院

東京都千代田区五番町 7 番地 2

目 次

はじめに

I 囲碁普及事業（公益目的事業1）

- 1 棋戦事業
- 2 専門棋士育成事業
- 3 囲碁普及と囲碁指導
 - 3-1 青少年等への囲碁普及
 - 3-2 国内における囲碁普及および囲碁愛好者への指導
 - 3-3 海外への囲碁普及
- 4 囲碁対局環境の提供
- 5 段級位認定
- 6 囲碁大会の開催
 - 6-1 青少年対象の囲碁大会の開催
 - 6-2 囲碁選手権・囲碁大会等の開催
 - 6-3 国際囲碁選手権の開催及び海外囲碁大会等の協力
- 7 表彰
- 8 囲碁関係情報提供
- 9 囲碁殿堂資料館
- 10 各拠点での活動
 - 10-1 八重洲囲碁センター
 - 10-2 関西総本部
 - 10-3 中部総本部

II 収益事業

- 1 免状発行および普及指導員認定事業（収益事業1）
- 2 不動産賃貸事業（収益事業2）
- 3 販売品、書籍事業（収益事業3）

III 管理部門

- 1 受取寄付金
- 2 コンプライアンス

はじめに

日本棋院は、日本の伝統文化である囲碁の継承発展と普及振興を図るために、棋戦の開催や専門棋士の育成及び不特定多数の囲碁愛好者を対象とする囲碁指導、棋力認定、囲碁情報提供などの事業を国内外で実施し、囲碁を通して文化の向上に資することを目的とする。

この目的を達成するために平成24年度の事業計画を以下の通り策定し、推進する。

I 囲碁普及事業(公益目的事業1)

1 棋戦事業

棋戦は、囲碁の歴史を創造する場であり、棋道の研鑽と発達に重要な役割を果たしている。棋戦の様子は、テレビ・インターネットで中継され、全国の囲碁愛好者の棋力向上と囲碁文化の振興に寄与している。また、地方で開催される挑戦手合や棋戦では、専門棋士と地元の囲碁愛好者や子どもたちの交流の場として、対局を直に見る機会を設けるほか、解説会や指導碁等、ファンイベントを同時に開催する。海外棋戦やインターネット棋戦等を含めた平成24年度予定の棋戦概要、共催団体等は以下の通り。

(1) 棋聖戦 (第37期 読売新聞社)

予選：全棋士が参加し、リーグ戦入り（4枠）をかけたトーナメント戦を実施。

リーグ戦：2リーグ制。各リーグ6名の総当たり戦を実施。

各リーグ1位が棋聖への挑戦権をかけて一番勝負。

なお、各リーグ2名、合計4名は来期予選からの出場。

挑戦手合：七番勝負（4勝先取）を実施し棋聖位を決定。敗者は来期リーグ戦出場。

(2) 名人戦 (第37期 朝日新聞社)

予選：全棋士が参加し、リーグ戦入りをかけたトーナメント戦を実施。

リーグ戦：9人による総当たり戦を実施し第1位者が挑戦者になる。

なお、リーグ3名は来期予選からの出場。

挑戦手合：七番勝負（4勝先取）を実施し名人位を決定。敗者は来期リーグ戦出場。

(3) 本因坊戦 (第67期 毎日新聞社)

予選：全棋士が参加し、リーグ戦入りをかけたトーナメント戦を実施。

リーグ戦：8人による総当たり戦を実施し第1位者が挑戦者になる。

なお、リーグ4名は来期予選からの出場。

挑戦手合：七番勝負（4勝先取）を実施し本因坊位を決定。敗者は来期リーグ戦出場。

(4) 天元戦 (第38期 新聞三社連合)

予選：全棋士が参加し、本戦出場28名+αをかけたトーナメント戦を実施。

本戦：シード棋士が加わり天元への挑戦権をかけたトーナメント戦を実施。

挑戦手合：五番勝負（3勝先取）を実施し天元位を決定。敗者は来期本戦から出場。

(5) 王座戦 (第60期 日本経済新聞社)

予選：全棋士が参加し、本戦出場16名の枠をかけたトーナメント戦を実施。

本戦：シード棋士が加わり王座への挑戦権をかけたトーナメント戦を実施。

挑戦手合：五番勝負（3勝先取）を実施し王座位を決定。敗者は来期本戦から出場。

(6) 碁聖戦 (第38期 新聞囲碁連盟)

予選：全棋士が参加し、本戦出場24枠をかけたトーナメント戦を実施。

本戦：シード棋士が加わり碁聖への挑戦権をかけたトーナメント戦を実施。

挑戦手合：五番勝負（3勝先取）を実施し碁聖位を決定。敗者は来期本戦から出場。

(7) 十段戦 (第51期 産経新聞社)

予選：全棋士が参加し、本戦出場16枠をかけたトーナメント戦を実施。

本戦：シード棋士を含む20名で十段への挑戦権をかけたトーナメント戦を実施。

挑戦手合：五番勝負（3勝先取）を実施し十段位を決定。敗者は来期本戦から出場。

(8) 竜星戦 (第21期 囲碁将棋チャンネル)

予選：全棋士が参加し、本戦出場96名をかけたトーナメント戦を実施。

本戦：96名を8組に分け勝ち抜き戦の後16名によるトーナメント戦を実施し優勝者を決定する。CS放送（囲碁・将棋チャンネル）で放映。

(9) NECカップ (第31期 NEC)

選抜棋士（7大タイトル保持者、NHK杯選手権者、賞金ランキング上位）14名によるトーナメント戦により優勝者を決定する。

(10) NHK杯テレビ囲碁トーナメント戦 (第60回 NHK)

選抜棋士50人によるトーナメント戦を実施し優勝者を決定する。

(11) テレビ囲碁アジア選手権 (第24回 NHK・KBS・CCTV)

日本、韓国、中国3カ国が持ち回りで開催。

前年度優勝者と（NHK杯、KBS杯、CCTV杯）優勝、準優勝者、各3名の計7名によるトーナメント戦により優勝者を決定する。第24回は韓国開催。

(12) 新人王戦 (第38期 しんぶん赤旗)

25歳以下の初段から六段までの棋士で予選を行い、前期優勝者を含む33名によるトーナメント戦を実施する。優勝決定三番勝負出場者2名を選出し優勝者を決定する。

(13) 阿含桐山杯全日本早碁オープン戦 (第19期 毎日新聞社・京都新聞社・阿含宗)

アマチュア20名を含む全棋士で予選を行い、予選通過者とタイトル保持者の計16名で本戦トーナメントを実施し、優勝者を決定する。（決勝戦は京都開催）

(14) 阿含桐山杯日中決戦 (第14期 毎日新聞社・京都新聞社・阿含宗)

日本と中国の桐山杯優勝者が両国交互で日中決戦を実施し、優勝者を決定する。

14期は日本開催。

(15) 女流本因坊戦 (第31期 共同通信社)

予選を勝ち上がった16名によるトーナメント戦

挑戦手合：五番勝負（3勝先取）を実施し女流本因坊位を決定する。

(16) 女流名人戦 (第25期 産経新聞社)

予選を勝ち上がった7名がリーグ戦を行い1位が挑戦者となる。

挑戦手合：三番勝負（2勝先取）を実施し女流名人位を決定する。

(17) 女流棋聖戦 (第16期 NTTドコモ)

予選を勝ち上がった16名によるトーナメント戦。

挑戦手合：三番勝負（2勝先取）を実施し女流棋聖位を決定する。

本戦、挑戦手合はCS放送（囲碁・将棋チャンネル）で放映する。

(18) 広島アルミ若鯉戦 (第7期 広島アルミニウム)

30歳以下、六段以下の棋士で予選を行い、16名(シード前期優勝者、準優勝者)によるトーナメント戦。本戦は広島で開催され、優勝者を決定する。

(19) 王冠戦 (第54期 中日新聞社)

中部総本部所属の棋士で予選を行い12名によるトーナメント戦。優勝者が挑戦手合一番勝負に出場。

(20) マスターズカップ (第2回 エステー・フマキラー)

50歳以上の現役七大タイトルホルダー及び経験者と予選勝ち抜き者4名計16名のトーナメント戦で優勝者を決定する。

(21) おかげ杯 (第3回 濱田総業)

30歳以下の棋士(新入段含む)で予選を行う。16名(前期優勝者シード含む)によるトーナメント戦。本戦は伊勢市で開催され、優勝者が決定する。

(22) ネット囲碁オープン (第8回 大和証券グループ)

前回ベスト8と予選勝ち抜き者の計、32名によるトーナメント戦。全対局をインターネットで行う。第8回からはネット棋戦としては初めての公式戦として実施予定である。

(23) 海外棋戦

LG杯・三星杯・BCカード杯・農心杯(韓国)、春蘭杯・百霊杯・黄竜士正太杯(中国)、応氏杯(応昌期囲碁教育基金会)等の海外棋戦に参戦する。

2 専門棋士育成事業

専門棋士をめざす青少年に囲碁の技芸を切磋琢磨する場を提供し、囲碁文化の継承者に育成する事業として「院生制度」を実施しているが、国際的にも通用する強い専門棋士の養成が今日的な最重要課題と受けとめ、若手棋士を国際棋戦での活躍に向けて育成すると共に、囲碁ファンや支援者から親しまれ、尊敬される人材育成を行う。

(1) 院生制度

① 院生研修(棋士育成の柱)

専門棋士をめざして、現在約100名の院生が研修に励んでいる。研修は、院生師範の指導のもと毎土・日曜日(月8日間)に対戦する。毎月の成績によりクラスの昇降を行い、棋士採用試験を経て専門棋士となる。

② 内弟子支援

12歳以下の内弟子院生を対象として経済的負担を軽減のため保護者を支援する。また、14歳以下の内弟子院生の研修費を免除する。

③ 院生研修検討会

院生研修開催日に、タイトル棋士、リーグ入り棋士による解説と検討指導を行う。

④ 院生ネット指導

毎週火・水・金 午後8時より9時30分に、院生希望者とネット対局「幽玄の間」で棋士が対局指導を行う。その内容は一般公開する。

(2) 若手棋士育成

①若手棋士強化合宿（於：中国） 年2回

若手棋士及び院生成績上位者を対象として、中国棋院の協力を得て、春季・夏季の2回、棋道研鑽の場として中国での強化合宿を実施する。

②若手棋士育成イベントの実施（週刊碁主催 中野杯）

20歳以下の若手棋士および院生らによる棋戦。参加人数は32名から40名程度。今年度は第9回、4月または5月に予選を行い、決勝戦は7月、8月ごろの予定。

③中国遠征（中野杯上位者を派遣）

中野杯のベスト8と推薦者若干名が参加する。これまで8回、毎年11月から1月の間に実施してきており、今年も冬季に実施の予定。1日2局、3日間で一人6局、将来有望な中国の若手棋士らと対局する。

④海外棋戦への若手棋士の挑戦（BC杯、三星火災杯）

近年、海外棋戦は予選からオープンになり、誰でも、参加できるようになった。特に若手棋士の挑戦を促し、韓国、中国の棋士との対局を通じて国際感覚を身につける経験を積み重ねていく。

3 囲碁普及と囲碁指導

囲碁は、自由な発想と創造性を育むとともに、脳の活性化や生きがいの形成、人と人とのふれあいなどにも大いに役立つことが福祉、医学、教育界等で認知されてきている。囲碁の素晴らしさを幅広い世代へ伝えるため、普及活動を推進する。また、すべての囲碁愛好者の棋力向上と囲碁文化を普及するため、専門棋士による指導のほか、普及指導員、学校囲碁指導員による囲碁指導を全国で展開する。

3-1 青少年等への囲碁普及

囲碁が青少年の健全育成に寄与し、学校教育に役立つことへの理解を求める活動を強化するために、地方自治体・教育委員会・学校と協力体制をとり、地域に密着した囲碁普及事業を広く展開する。

(1) 囲碁入門・初級教室の実施

①全国の小・中学校で入門囲碁体験教室を開催

専門棋士等を派遣し指導を行う。また、現地での継続的な開催を支援する。

②ジュニア教室の開催

東京本院、八重洲囲碁センター、関西総本部、中部総本部の各施設にて定期的に棋力に応じた教室を開催する。

(2) 学校教育への囲碁導入

①学校での正課授業や部活動等への囲碁導入支援

②学校囲碁指導員制度の拡充及び指導員養成とその派遣

③文部科学省「放課後子どもプラン」の中での囲碁導入推進

④高等学校に於ける日本の伝統・文化としての囲碁の授業の導入推進

(3) 学校囲碁指導員講習会の開催

学校教育の中に囲碁普及を拡充するため、また、指導者を養成するため、財団法人

JKAの青少年健全育成補助（予定）を受け、学校囲碁指導員講習会を全国的に展開する。（本年度の予定：17会場での開催を企画する。）

(4) 囲碁少年少女育英資金活用による事業

全ての日本の子供たちに“囲碁の素晴らしさ”を伝える活動として、囲碁少年少女育英資金を有効活用し、囲碁の才能育成のための奨学金事業、学校教育への導入の際の専門棋士または指導員の派遣、囲碁大会、用具支援等を行う。

(5) 囲碁と脳に関する研究と大学での囲碁授業の展開

①東北大学加齢医学研究所との「囲碁と脳に関する研究」を継続

平成23年度に、都内の公立小学校で実施した実証実験の結果を分析するとともに、研究結果を普及活動の側面支援に有効活用する。

②大学での囲碁授業の展開

東京大学、早稲田大学、慶應大学等で開講される囲碁授業の講師として専門棋士の派遣を支援する。

(6) 法人賛助会員の維持

法人賛助会員は、各企業の社会貢献活動として、日本棋院が行う普及活動にご支援いただくもので、子供たちへの囲碁普及、若者の囲碁の才能の発掘と育成、囲碁による高齢者の健康増進等の囲碁普及に有効に活用している。

3-2 国内における囲碁普及および囲碁愛好者への指導

囲碁のすばらしさを伝え、囲碁を知らない方への入門指導、一般囲碁愛好者の棋力向上に向けた指導、囲碁を日本における重要な伝統文化の一つとして継承する。

(1) 囲碁学校

日本棋院の各施設において、入門者から高段者まで様々な棋力の方を対象とした囲碁学校を常時開設。専門棋士による講座・解説を実施する。

(2) 指導碁

日本棋院の各施設において、指導碁を担当する専門棋士をほぼ毎日常駐させ、希望すれば入門者から高段者まで直接指導が受けられる体制をつくり、囲碁愛好者の棋力向上に努める。

(3) ネット指導碁

日本棋院が運営するインターネット対局サイト「幽玄の間」上でプロ棋士による指導碁を実施している。ネットの特性で遠隔地にお住まいの囲碁ファンも気軽に指導碁を受けられるとすることで好評を博している。

(4) 専門棋士派遣

法人・個人を問わず全国各地からの要請により、専門棋士の派遣を行う。主な派遣活動として、大会審判、指導碁、講演・講座、入門教室等を行う。棋士派遣は国内で約800件が見込まれる。

(5) 囲碁未来教室の開催

雑誌「囲碁未来」を教材として使用し、要望のあった各地の支部等で囲碁未来教室を開催。指導員及び専門棋士を派遣し支援する。

(6) 囲碁愛好者との連携強化

公益法人に移行後、より多くの囲碁愛好者との連携を深めるため、新たな会員種別を新設した。これらを周知徹底して、個人・支部会員等の維持拡大を図る。

①個人・支部会員の維持（新設したジュニア会員、サポート会員の拡大）

②法人会員の維持

③支部の活性化

囲碁普及と各地の囲碁愛好者の棋力向上を目指し、支部代表者懇談会を全国8箇所で開催し、現地の要望、提案等意見交換を行い、活性化を図る。

3-3 海外への囲碁普及

国際交流、文化交流を目的に囲碁を海外へ紹介するとともに、マインドスポーツという側面でも、他国の囲碁団体と協調し、囲碁人口の拡大を図り、現地囲碁愛好者の棋力向上に寄与する。

(1) 国際囲碁連盟（IGF）との連携

日本棋院は、国際囲碁連盟（IGF）と連携し、世界各国への囲碁の普及と世界の囲碁界の組織化に努めている。

(2) 文化交流使の活動を支援

文化庁の「文化交流事業」の一環として、海外の人々に日本文化への理解の促進と日本と外国の文化のネットワーク形成・強化のため、文化交流使の活動を支援する。

(3) 専門棋士の海外派遣

各官公庁・民間団体等の支援を得て、専門棋士を海外に派遣し、囲碁文化の紹介と入門指導や現地高段者への講座を行うなど、囲碁文化普及と棋力向上に努める。

4 囲碁対局環境の提供

日本棋院の各施設において一般対局場を開設する他、インターネット通信対局「幽玄の間」を開設し、誰でも囲碁が楽しめる環境を提供して囲碁愛好者の棋力増進に寄与する。

(1) 一般対局室の開設

東京本院、八重洲囲碁センター、関西総本部、中部総本部の各施設において、対局場を開設し、「級位者の日」、「有段者の集い」など来館者にとって魅力のある対局を組合せるほか入門者向けのコーナーを設けるなど誰でも囲碁を楽しめる環境を提供する。

(2) インターネット対局サイト「幽玄の間」

あらゆる世代の囲碁愛好者がパソコン上で手軽に対局を楽しめる環境を提供する。日本のみならず、韓国・中国・台湾などの東アジアさらにヨーロッパ、北米などの世界の囲碁ファンとコミュニケーションの場が広がりを見せており、指導碁解説付加などの機能改善やiPhoneなどプラットフォームの拡大をはかることにより今後囲碁普及における中核的な事業として位置付けていく。

(3) 貸室の提供

囲碁愛好者の大会やセミナー等の開催に合わせ、ホールや和室等の貸室を提供するほか、対局時計や解説用大碁盤等の貸し出しを行い、職域大会や地域囲碁大会等の利用に応じる。

(4) 外国囲碁センターの支援

欧州（1か所）、北米（2か所）、南米（1か所）の計4か所に保有する囲碁センターを引き続き現地の囲碁普及団体に貸与し、現地の囲碁普及活動を支援していくが、今後の在り方については現在検討中。

5 段級位認定

段級位の認定は棋力の到達度の証明となるもので、対局を行う際にはハンディキャップが付与され、棋力の差がある者同士の対局でも勝敗を競うことが可能となる。

(1) 段級位認定大会

今年度も全国各地で認定大会を開催する。

(2) 紙上認定

日本棋院発行の碁ワールド、囲碁未来、週刊碁あるいは、一般紙に掲載される認定問題やホームページ上の認定問題を掲載し、段級位認定を行う予定。

6 囲碁大会の開催

各都道府県において、現地の囲碁愛好者が運営する日本棋院県本部あるいは県支部連合会と連携し、日本棋院が認可した約700の支部の協力を得て、囲碁大会の主催、後援等を行う。

6-1 青少年対象の囲碁大会の開催

高校生以下を対象とした3つの全国大会及び地区大会を開催し、また、各県や団体が開催する子ども大会への協力・後援を積極的に行なう。

(1) 第33回 文部科学大臣杯 少年少女囲碁大会

各県大会を勝ちあがった選手の全国大会を7月31日～8月1日の2日間、東京の日本棋院で開催予定。地方大会において複数会場開催を呼びかけ、参加校、参加人数増を目指す。全国大会は小・中学生それぞれ101人が参加する予定。

(2) 第9回 文部科学大臣杯 小・中学校囲碁団体戦

全国大会は7月29日～30日の2日間、小中学生それぞれ1チーム3名編成の学校単位のチームの団体戦で開催予定。＜財団法人JKAの青少年健全育成補助（予定）＞

(3) 第36回 文部科学大臣杯 全国高校囲碁選手権大会

昨年度に引き続き地方大会において複数会場開催を呼びかけ、さらに参加校、参加人数増を目指す。全国大会は7月23日～25日の3日間、東京の日本棋院で開催予定。＜財団法人JKAの青少年健全育成補助（予定）＞

(4) 第2回くらしき吉備真備杯こども棋聖戦

平成23年から、倉敷市と読売新聞社との共催でスタートした新大会。都道府県大会において選抜された小学生低学年の部48名、小学生高学年の部48名の計96名がこども棋聖の称号をかけて競う。

(5) 第1回ロッテこども囲碁大会

中学生以下のこどもを対象に5月4日、日本棋院で開催予定。9路盤、13路盤、19路盤の使用がこどもたちの人気を呼び、1,000人以上の参加を見込む。

(6) その他の大会を継続開催

- ・ジュニア囲碁大会
- ・丸の内キッズフェスタ
- ・ジュニア囲碁パーク

6-2 囲碁選手権・囲碁大会等の開催

多数の協賛会社のご協力を得て、各種の全国大会や地方大会、地域独自の大会を開催予定。今年度の主な大会は以下の通り。

(1) 宝酒造杯クラス別チャンピオン戦

級位戦から名人戦までの9クラスでそれぞれチャンピオンを決める大会。全国7ブロック、9会場で地方大会を開催し、11月に全国大会を開いてチャンピオンを決定。

(2) 第55回全日本女流アマ選手権戦

各県大会を勝ち上がった選手128名が3月2日～3日、日本棋院で行われる全国大会で日本一を競う。

(3) 第50回女流アマ都市対抗戦

アマチュア碁界で最大規模の都市対抗戦。

1チーム5名の団体戦。10月17日、18日の2日間、山口県下関市で行う予定。全国からの参加選手は約700人～800人と予想される。

(4) 第12回内閣総理大臣杯全国アマチュア団体囲碁選手権

内閣総理大臣杯・全国アマチュア団体囲碁選手権は、1チーム3名編成であれば誰でも参加できる団体戦。東京と大阪の2会場で開催され、2会場の優勝チームは東京で決勝戦を行い、勝利チームに内閣総理大臣杯が授与される。

(5) 大和証券杯ネット囲碁アマチュア選手権

インターネット上で、15クラスに分かれてのクラス別トーナメントを開催予定。参加者数は、約2000人。

(6) 都道府県民まつりの開催

① 世界アマ選手権日本代表決定戦 県予選

年々参加国が増加し、発展する「世界アマ大会」の唯一の国内予選として今後も強力的に推進する。

② 日本棋院支部対抗戦 都道府県大会

各県の大会・行事の中で開催し、地域間での親睦・交流を深めることを目的にまた、支部の活性化となるよう推進する。

(7) 全国規模イベントへの参加

「ねんりんピック健康福祉祭」は、10月13日～16日に宮城県仙台市で開催される。生涯学習、文化向上、健康福祉への一助として積極的に参加、協力を行う。

(8) その他大会等

1月5日を「囲碁の日」とし、打ち初め式を東京本院、関西総本部、中部総本部で開催する。その他、ジャンボ大会、オールアマ団体戦等を開催して囲碁ファンの交流の場となるように、また棋力向上につながるような場所を提供する。

6-3 国際囲碁選手権の開催協力及び海外囲碁大会等への協力

(1) 第33回世界アマチュア囲碁選手権戦

囲碁による相互理解と文化交流を基本理念に、各国の選抜戦を勝ち抜いた世界中のアマチュア囲碁愛好家が、国を代表して「世界一」を目指し、4日間にわたる熱戦を繰り広げる大会。本年は、中国棋院の主催による中国・広州での大会開催に協力。

(2) その他アマチュア国際大会への参加、国際交流の支援及び後援

7 表彰

棋道の研鑽、囲碁普及と発展に顕著な貢献を頂いた方々及び日本囲碁界の将来を担う専門棋士を対象にその栄誉をたたえ表彰する。

(1) 大倉喜七郎賞

日本棋院の生みの親、故大倉喜七郎氏の遺徳をたたえ、昭和39年に創設。専門棋士、アマチュア、国内外問わず、囲碁普及に特に功労のあった方を表彰する。囲碁界において最も重きをなす賞とされており毎年数名を表彰する。
選考委員は外部有識者による。

(2) 秀哉賞

21世本因坊秀哉名人の業績を永く記念するため昭和38年に創設。囲碁界において顕著な成績を収め、将来が嘱望される専門棋士に贈呈される。
選考委員は外部有識者による。

(3) 囲碁殿堂表彰

日本棋院創立80周年記念事業として、囲碁殿堂資料館の発足とともに開始し、囲碁史上に多大な業績をあげ、現在の囲碁の隆盛に貢献した人を顕彰（殿堂入り）する。

(4) その他、普及功労賞、普及活動賞、優秀支部表彰、特別功労賞、土川賞等がある。

8 囲碁関係情報提供

日本の伝統文化である囲碁を次代に継承していくことは、日本棋院にとって大切な使命と認識し、出版物、あるいはインターネット上に囲碁文化・技術等に関する情報を社会に発信する。

(1) 雑誌、新聞の発行

①月刊「碁ワールド」

中級者から有段者向け月刊誌として、棋戦解説を中心にグラビア、講座、読み物、海外ニュースなどバラエティーに富んだ内容を掲載する。

②月刊「囲碁未来」

入門から初段を目指す方を対象として、棋力向上のための布石、定石の問題、講座等、囲碁情報等を掲載する。また囲碁未来教室のテキストとしても活用する。

③「週刊碁」

週刊碁は、囲碁界のニュース速報を主眼にタイトル戦特集、棋士の動向、海外情報、アマ大会や一般ファンを対象にした催し案内、上達講座、認定問題など、幅広い層を意識した多彩な構成を特徴とし、国内外の囲碁愛好者へ情報を発信。

④「囲碁年鑑」

月刊碁ワールドの臨時増刊号として5月に発行予定。国内棋戦、国際棋戦、アマ大会、囲碁界の記録集、棋士名鑑など平成23年一年間の囲碁情報をまとめる。

(2) 電子媒体による情報提供

①「幽玄の間」

「幽玄の間」では、対局の他に様々な機能を展開し、様々な情報提供も行う。

24年度は、iPhone、iPad 向けのアプリのリリースを予定している。

- ・棋戦や主要なアマ大会の手順中継を行い、トップレベルの棋譜を配信
- ・棋士とのふれあいイベント
- ・同好会機能による囲碁ファン同士の交流

② 情報会員

情報会員には最新棋譜から過去の名局まで、40年以上に亘る、約4万局の棋譜データを提供している。また、ためになる棋譜解説、早わかりタイムトライアル等の講座、入門初級者向けのページなど様々なファン層に対応した情報を提供する。

③ 碁バイルセンター

「碁バイルセンター」では、携帯電話で手軽に囲碁情報や、棋譜鑑賞、さらには対局まで楽しめ、入門コンテンツや囲碁問題を提供し、どこでも囲碁が楽しめるコンテンツを提供する。

④ 情報端末向けサービス

平成22年1月より、携帯電話（ドコモ、au、ソフトバンク）向けにタイトル戦の生中継サービスを開始した。観戦は無料で、囲碁ファンに手軽にタイトル戦を楽しんでいただけるように、各棋戦でも実施していくように務める。

⑤ 電子書籍アプリ

週刊碁、月刊碁ワールド、囲碁未来を電子書籍アプリ「i 碁 BOOKS」で配信。

9 囲碁殿堂資料館

平成16年11月15日に開設し、囲碁殿堂入りの方々を顕彰するとともに、囲碁の歴史、囲碁文化についても広く一般に紹介する。また、関連図書、由緒ある囲碁用品の展示、歴史に残る名棋譜の整理、展示を行う。

10 各拠点での活動

日本棋院の各拠点においては、地域性を活かしながら東京本院と一体になって、本年度の事業計画を策定し、積極的に活動推進する。

10-1 八重洲囲碁センター

東京駅・八重洲北口という地の利を活かし、全国の囲碁ファンへ総合的なサービスセンターとしての役割を担っている。当センターでは、棋士による指導碁、盤石や囲碁用品、書籍の販売、級位者から有段者までの囲碁学校、特にこども教室の充実を図る。各種囲碁大会、碁会に利用していただける貸室もより一層のファンサービスを心掛ける。

10-2 関西総本部

大阪市北区に拠点を置く関西総本部は、近畿六府県(大阪、京都、兵庫、奈良、滋賀、和歌山)と広島、岡山両県を統轄する。

(1) 各種大会の開催及び後援（主なイベントは以下の通り）

- ・夏休み子ども囲碁フェスティバル
- ・歳末たすけあいチャリティ囲碁まつり
- ・比叡山囲碁ゼミナール
- ・阪急電鉄 納涼囲碁まつり

(2) 会館事業の充実

ホールでは、一般対局のほか棋士による指導碁、級位者の日や有段者の集い、囲碁学校、入門教室を開催。貸室では、法人各種団体の利用を促し、より快適にご利用頂けるよう努める。

(3) こども達への囲碁普及の充実

関西財界の応援を頂き「関西学校普及事業（小学校こども囲碁入門教室）」を4月より関西棋院と共催で地元の囲碁協会と協力して市の行政や教育委員会の理解を頂き、関西の公立小学校へ総合学習の時間やクラブ活動の時間を利用し行う。

また、子供大会を一層充実させるとともに小中学校等の囲碁教室への協力や普及指導者への支援等、関西のこども達への普及をより一層拡大させるように努める。

10-3 中部総本部

名古屋に拠点を置く中部総本部は、中部七県（愛知・岐阜・三重・福井・石川・富山・静岡県天竜川以西）を統括する。

(1) 各種大会の主催及び後援等（主なイベントは以下の通り）

- ・囲碁ゼミナール
- ・東海地区朝日アマ団体十傑戦
- ・ジャンボ団体戦
- ・中部こども級位者大会
- ・会員と棋士囲碁のつどい
- ・愛知県・江蘇省青少年囲碁交流

(2) 中部総本部の棋戦等の実施（新聞掲載）

中日新聞社主催「第52期王冠戦」（中部総本部プロ棋戦）

中日スポーツ主催「プロ・アマお好み対局」

(3) 指導碁・囲碁学校・イベント

①指導碁は、平日1名、土・日曜日は1～2名の棋士を配し、指導碁の充実を図る。

②院内イベントの充実を図る。

- ・「10 アンダーの日」
- ・「級位者の日」、「有段者の日」
- ・「Happy 級位者の日」、「Happy 有段者の日」

③入門から初級までの一貫したステップアップ講座、講習会、全11コースから13コースに増設し、囲碁ファンの底辺拡大に努める。

Ⅱ 収益事業

1 免状発行および普及指導員認定事業（収益事業1）

(1) 免状発行

段級位認定大会、紙上認定等で認定された段級位に基づき、免状発行する。

免状は、棋力の証明となるのもので、棋力向上の励みとなるよう3級から八段までの免状を発行する。免状には、審査役である専門棋士の署名がなされる。

(2) 普及指導員認定事業

囲碁愛好者の拡大と入門・初級者への指導者資格認定として、初段以上の免状保持者に囲碁普及指導員申請の権利を与え、六段以上の高段位免状保有者には、公認審判員を申請する権利を付与する。指導員になるためには、指導員研修会の受講と書類審査を行う。

2 不動産賃貸事業（収益事業2）

東京本院では地下1F部分を、中部総本部では1F、4～6F部分を他法人に賃貸している。

3 販売品、書籍事業（収益事業3）

(1) 販売事業

東京本院、八重洲囲碁センター、関西総本部、中部総本部の各拠点に売店を設け、碁盤、碁石、碁笥などの対局用具、各種囲碁用品、囲碁書籍の販売を行う。また、全国各地でも購入できるよう、通信販売センターの設置や、インターネットを利用したのオンラインショップでの物品販売も実施する。

(2) 書籍製作販売

入門から高段者まで棋力向上の講座物、問題集、棋譜解説、定石、手筋、死活詰碁、事典、囲碁の歴史書まで、さまざまな囲碁に関する単行本を発行。現在150点の書籍を日本棋院各拠点の売店、全国の書店で販売する。

また、日本棋院が発行した各種書籍を電子書籍アプリ「i碁BOOKS」で配信、囲碁アプリ「詰碁マスター」、「四路ワールド（仮）」で、過去に日本棋院の出版物に掲載した問題を配信する。

Ⅲ 管理部門

1 受取寄付金

受取寄付金に関して、手続きや寄付者の公益法人移行による税制上の優遇制度の理解促進に努め、受取寄付金の維持・拡大を図る。

2 コンプライアンス

新法による新しい公益法人として、コンプライアンス行動規範に則り、新定款による執行体制、定款及び諸規程に沿った活動に努めるとともに、透明性の向上やガバナンスの確立に注力する。